

## 平成25年 第7回 教育委員会定例会議事録

招集日時 平成25年7月23日(火曜日) 午前10時30分開会/午後12時閉会  
招集場所 加賀市立中央図書館2階 視聴覚ホール  
出席委員 上田政憲、石橋雅之、酒谷百合子、畑中直子、旭直樹  
会議列席者 掛山事務局長、網谷次長兼学校指導課長、中矢次長兼九谷焼美術館副館長、梶谷教育庶務課長、西出生涯学習課長、谷口スポーツ課長、田嶋文化課長、矢嶋図書館長、柏田市政図書室長、米屋教育庶務課長補佐

上田委員長 平成25年第7回教育委員会定例会開会宣言  
挨拶  
早速、議案に入りたいと思います。議案第19号について、ご説明お願いいたします。

■ 議案第19号 加賀市文化財の指定について  
田嶋課長 資料に基づき説明

上田委員長 確か7月11日の新聞で間違った報道がございましたけども、これについては前回の教育委員会定例会で大変詳しくご説明いただきましたので、それを文化財審議委員会に諮問し、審議会からの答申を受けるということになるかと思っております。これにつきまして委員の方から何かご質問ございますか。

旭教育長 市指定にしていくことは吝かではないと思っておりますが、今後の人物館としてリニューアルした後の維持管理と活用法を説明してください。

田嶋課長 これは今までもご説明しておりますように、この施設を利用しまして加賀大聖寺人物館として展観施設に改修する予定でございますが、その改修にあっても文化財の価値を損なわないかたちで改修をする予定でございます。もちろん不特定多数の人が出入りする施設になりますので、耐震補強ですとか、設計業者が決まりましてこれから設計に入りますが、その中で細部の調査をしまして、要は地震に耐えうるかどうかとかいろんな耐震調査、地質調査、そういうことも含めて調査をした上で設計をあげていただきます。それに基づいて修復をする。あるいは構造補強をするということになります。当然、展示館ですので展示ケースを室内に配置しないといけませんので、その重量計算をしてそれに耐えうるかたちで補強をする。ただし、文化財としての価値を損なわない設計・工事ということになります。もちろん完成してからは加賀大聖寺人物館として展観施設として活用していくわけなんですけど、一つの考え方としましては、類似の物として橋立の北前船の里資料館、あれも市指定の文化財になっているんですけど、イメージとしてはああいう室内展示だと思っていただければいいのではないかと思います。ただ、展示する物につきましては人物に縁の物、あるいは解説パネルや写真が中心になる

と思いますので、当然木造ですからそれほど重たい銅像を展示するということではできないかと思います。その辺りも含めて建物の特性を活かした上での展示活用ということになります。

上田委員長 展観施設として活用していくには上手く調整していかないといけませんね。  
田嶋課長 それとすみません、文化財の指定になりますと、例えば部分的な改造であるとかそういうことにつきましては、今後は文化財保護審議委員会に現状変更申請を出して、それが適切であるかどうか、文化財としての価値を損なわないかどうかをきちんと審議会で諮って承認を得てやっていきます。その辺りもご理解いただければと思います。

上田委員長 他に何か気になることはありませんか。

全委員 意見なし。

上田委員長 ないようですので、文化財の指定について採決をしたいと思います。ご承認の方は挙手をお願いいたします。

全委員 全員挙手

上田委員長 ありがとうございます。承認をいただきました。よろしくをお願いいたします。さて、報告案件がメインかなと思うのですが、まずは報告第 19 号についてご説明をお願いいたします。

■ 報告第 19 号 平成 25 年度石川県基礎学力調査の結果について  
網谷次長 資料に基づき説明

上田委員長 はい。今年度の基礎学力調査の結果についてご説明がありましたが、色々お聞きになりたいことがあるんじゃないかと思います。いかがですか。

旭教育長 ここは当然、折れ線グラフ・棒グラフの数値の根拠となる各学校のデータがあります。問題は中学校なんです。中学校3年生の今年の結果を見るとこれだけ差が開いている。では、この中学校3年生が小学校6年生の時にどういう位置付けにあったのか。ここにはありませんが、そういう分析を学校指導課の方でやっております。端的に申しますとそんなに悪くないんです。ところが中学校に行ってこれだけ差ができてきているということは、中学校3年間の育て方に問題があるのではないかと。じゃあ中学校側の論理はどうかと、学校でしっかり原因を追究してもらって2学期にどう対応していくのか8月の教育長ヒアリングで報告してほしいと、中学校の校長に一人ずつ来てもらって短いヒアリングをしました。私の感ずることは、中学校に入ってきたときの1年生は悪くない。ところが、その時の中学校の状況がどうであったか。3年生がものすごく荒れていた。そうするとそっち側に手がかかって中1・中2が置き去りになってしまう。先生方は3年生の問題のある突出した子達に奔走してずっと負の連鎖です。事が起こってから手当てする。絶対にこれは未然防止しないと、起こってからの学力向上策をしても無駄なことなんです。だから先手必勝でやるにはどうしたらいいかというと、小学校でしっかり育ててきているのであれば、小学校と中学校がもっと

真摯に連携を取ってどのような授業形態にもっていくか、中1ギャップがあまりにも大きいと思います。皆さん計画訪問等で見に行っていたとお分かりだと思っんですが、小学校の頃からこんなふうにして「私は授業に参加しません」という態度の子はいません。ところが中学校へ行くとそれが当たり前のようにしている。中学校の中でもそんな雰囲気が全くない中学校もある。2校ほどしかないが、その学校はやっぱり良いですよ。やっぱり学校の雰囲気・校風・環境というものを作り出していないと皆に影響してくると私は思っております。よって教育委員会事務局としてここを直していく。是正していくことが教育委員の使命と責任であると思います。来年はわかりませんが、この結果を見て小学校と中学校の連携をどうしていくのか。ここを皆さん方には今後計画訪問等をする時に念頭に置いていただければと思います。校長側に対しては宿題として出しています。

上田委員長  
旭教育長

委員の皆様方はどうでしょうか。

もう一ついいですか。データを見ないままではいけないんですけども、喜ばしいのは小さい規模の学校はたくさんありますよね。これは良いんです。小さすぎて運動会とか行事ができないという問題が出てくるんですが、学力だけを見ると小規模校はみな良いんです。大規模校は苦しいんですが、そんな中であって山代小学校の4年生、試験を受けている対象が115名でした。これが石川県の中でも上位なんです。これは頑張ったなと思います。これをどう小学校6年まで持って行って山代中学校まで持っていくのか。だから徐々に小学校は右肩上がりになっていると思うんです。それを受けて、中学校側の受け皿としてこのまま9年間を見通して育てるようはどう持っていけるのか。「中学校は中学校でやってくれ」と言っていたら子どもは育たないと思います。9年間を通した育ちということ意識させないといけない。先生方は皆一生懸命ですけども、視点の当て方や発想の転換をしていかないといけないのではないかと思います。

上田委員長

ちょっと質問なんですけども、小学校の4年生で国語・算数をやって、6年生で社会・理科はわかるんですけども、中学校で社会・理科・英語というのは、国語や数学なんかはされないのですか。

網谷次長

申しませんでした、これは石川県独自の基礎学力調査の結果です。実は、同じこの4月に全国学力・学習状況調査が行われております。その際は、小学校6年生と中学校3年生が同じようにして調査があります。教科が6年生では国語と算数、中学校3年生は国語と数学です。4月に調査が終わったんですが、まだその結果が届いておりません。8月の10日前後に調査結果が届きますので、県の調査と合わせて次回お示しできると思いますのでもう少々お待ちください。

上田委員長

どこか良いところがなかったのか、数学はどうだったのかと思ったのですが、まだ届いていないわけですね。

酒谷委員

ちょっといいですか。例えば、各学校においてどこの学校が国語の能力が優れているとか、ここは算数の力が強いとか、そういう学校の特徴みたいなものはありますか。

網谷次長 例えば小学校4年生で国語がすごく良い学校、それから課題のある学校、そういったものは全てわかるようになっていきます。それともう一つは、テストの市町村の内容がどういったところで正答率が高くて、どういった問題が苦手な点数が取れていないのかについてもテスト問題を各学校に戻しまして、それについての各学校での来年度に向けた取り組みの参考資料にして活用していきます。

上田委員長 小学校・中学校を回りましたが、小学校はどの学校も明るいですが、中学校になると廊下自体が何か殺伐とした感じがあり、元気がないような気がしてならなかったですね。やっぱり中学校に問題があるのかもしれないですね。石橋委員、何かございますか。

石橋委員 今ずっと見ていたんですが、平成25年度の中学校3年生というのは平成22年度の小学校6年生、平成20年度の小学校4年生ですね。確かに平成25年度の時には平成22年度の時よりマイナス2.2、平成20年度よりマイナス3.0、その時の問題にもよるんでしょうが、総じて悪い。平成24年度の中学生、要するに昨年の中学3年生は県に対して0.8、21年度の時には県に対してマイナス2.3、19年度はデータがなくてわからないんですけども、逆に言うと昨年の中学3年生は6年生の時よりも県に詰めているわけですね。ここは何が違うのか。ただ、その時の生徒の能力の違いなのか、その時の教育の仕方の違いなのかということが何とかわかる方法がないのかなと実は思っておりました。それからもう一点、先ほど酒谷委員の質問にあったように、得意・不得意というものと各学校が行っている研究授業に関連があるのかどうか。これは今じゃなくてもいいので、どこかで示していただきたいなと考えておりました。

旭教育長 石橋委員が言われた通りなんです。こうやって追跡をして中3が最終的な到達目標ということであれば、この学年がどの時点で躓いていたのか。データがみなあるわけですから、チェックしているはずなんです。にも関わらず放置していたんじゃないかと私は思うんです。「悪いぞ」というサインを出していたのであれば、学校を挙げてその学年をどう手立てしていくのかをやっていないと、行き当たりばったりである学年は悪かったんだと覚悟してかからないといけない。こういうことばかりを受けていて、時間だけ過ぎていって3年生になっているのではないかという感覚があるんです。組織的・計画的な手立てというものを医者さんではないですけども、ここが病んでいる、でも瀕死の状態ではないからと送り出している。手立てをしてないんですね。悪い所があったら組織で対応する。加賀市の教育は9年間を見通してどの学年で躓いてもそれをフォローする。最後の中学校3年の時には何とか平均まで持っていきよう修正できる教育体制をつくり、最後の高校へ送り出す時には他市町と同じくらいのレベルで出せるような地域にしていかないと、子どものせいや家庭のせい、環境のせいにしてはいけないのではないかと。教育を預かる者としてプロ意識として学校の先生に見てもらわないといけない。そのリーダーシップをとっていくのは校長先生でありますし、それを指導するのは教育委員会ですから、こういう結果を真摯に受け止めて今後どのような組織プレイで向かっていくのか、この辺を

- 学校指導課と連携して、この夏しっかりと取り組んでいきたいと思ひます。
- 上田委員長 やっぱり義務教育の最終学年ですから、責任が加賀市というか。
- 旭教育長 この数値はやっぱり憂慮すべきだと思ひているんです。小学校4年が一番下であれば挽回してやるぞとなりますが、育ててきて最後で落とすというのは最悪なんです。何のために育ててきたのか。学校の先生方はこの重さをわからないといけない。だから我々教育委員も問われますよ。学校訪問をして何を見ていたのか。やっぱり悪いところは指摘していかないと、中学校の現場を預かる先生方の目が覚めないというか。確かに子どもも大変です。だからスクールソーシャルワーカーも置いたじゃないか、**QU**もしているじゃないか、予算も付けたじゃないか、先生方のする仕事は学力を上げて子どもに自信を付けさせる以外にないです。それを今年はやっと授業が静かになってくれたけども中身は教えていないんですよ。これはやっぱり最後の結果が問題だと思ひます。最後が逆転していれば、いろんなことがあってもちゃんと送り出せる。「終わり良ければ全て良し」こういう体制ならいいですよ。とろこが逆ですから、加賀市の危機だと私は思ひております。
- 上田委員長 事務局は色々と考えてらっしゃると思ひますが、現場がそれについていけないのではないかと思ひますから、現場の意識改革を何とかしないとイケないというように思ひます。
- 石橋委員 もう一つついでに意見を言わせていただくと、今年**25**年度が済みました。来年は誰が受けるのかということを見ますと、平成**23**年度の6年生、これは平成**21**年度の4年生、この学年はいずれも石川県と一番離されている世代ですので、非常に来年が怖いです。このことを先生にきちっと伝えてやらないと、中学になると目も当てられなくなります。是非ここだけは押さえていただきたいと思ひます。
- 網谷次長 今年の中学校3年生の生徒指導上、各学校に大変な子ども達がいた学年であったことは事実なんです。小学校の時はまだ幼かったので何とか周りの努力で保っていたものが、中学校へ行って思春期を迎えて一気に花咲いていく、そんな中で問題行動を起こす生徒が各学校に何人かずついるという状況で、そういった子ども達の影響で周りの子ども達が落ち着いて学習できる環境がなかなか整い難かったこと、それからそれに対応する先生方の意識が強くてどうしても学習に対する力の入れ様、取り組みが甘かったことがあるんじゃないかと事務局では考えております。昨日、小学校の校長より**2**倍の時間をとって各中学校の校長とお話しをさせていただきました。各学校の校長にあつては、手のかかる生徒、特に発達障害、家庭環境が劣悪な中で育てている生徒の話も出たんですが、そういったことについては言い訳にならないということで、教育長も厳しくお話しされております。それからもう一つは、石橋委員からもご指摘がありましたように来年度の、要するに現在の**2**年生が受ける学力調査のスタートはもう始まっていると、それに向けての各学校の方針について次回の教育長ヒアリングでしっかりと説明してほしいということをお伝えしてありますので、またそちら

の方で指摘をしながら改善に向けていきたいと思います。

上田委員長 なかなか難しい課題ではありますが、すぐに解決するというものではもちろんありませんし、かといって決してほったらかしにできるものではありませんね。

旭教育長 このことについてはまた後で細かいことは言わせていただきます。やっぱり我々教育委員として大事にしなければならないのは、今度、全国学力・学習状況調査の結果がきます。ただ勉強しただけでは点数がとれない問題に変わってきていますから苦手なことも色々あるでしょうけど、その時に一番問題なのはそれと並行して「あなたは国語が好きですか。」とか、「授業は真剣に受けていますかとか。」など、要するに学習状況調査というのが付いてくるんです。そうすると学習意欲の問題を調査できるんです。ここを分析して学習意欲と学力の相関関係、大体想像できますけど、加賀市の子達は学習意欲の面で最初からリタイアしているのか、意欲はあるけどできないのか、ここを指導主事に結果がきたら必ずこの関係を調べてほしいと頼んであります。そこを調べつつ学校としてどう手立てをするのか。学力が悪くても挽回できる学力なのか、最初からリタイアする意欲のない学力なのか、教育委員会として現状を指導する立場としてはここを見て学校現場に指摘しないといけない。各学校の状態ですね。それは先生と生徒がお友達になっているんじゃないか、本当に学力を上げる気で授業をしているのか、その場だけ終わればいいという思いで授業をしているのか、そこは鋭く指摘していかないと見ただけでは全部良い授業に見えてしまいます。教育の質というか、授業の質の問題です。これは指導主事の見から見ると、この先生は全くさぼっているなというのがわかるんです。工夫をしていない。ただ授業をすれば子どもが伸びるわけではないので、その辺を指導主事はしっかり見て学力との関係を指導してほしい。また学力調査の結果がきたら分析も含めて教育委員にまず報告します。それを受けて市長に報告します。こんな結果でした、というだけでは駄目です。これを受けて次どうするか。加賀市教育委員会として将来を担う子ども達をどう育てていくのか。そのための手立てとしてどういう予算が必要なのか。こういうことになってくると思いますので、また皆様方のお知恵を借りながら次なる手立てを考え、教育環境を良くするように持っていかないといけないと思っております。以上でございます。

酒谷委員 県平均が出ていますけども、この加賀市というのは石川県の中でどのような位置なんでしょうか。それはわかりませんか。

網谷次長 もちろんわかっておりますので、また後でお示ししたいと思います。

上田委員長 後ほど考える時間があるようですので、次に報告第20号について説明をお願いします。

■ 報告第20号 加賀市教育体制検討に係るアンケート調査実施状況について  
網谷次長 資料に基づき説明

上田委員長 何かこれについてご質問ございますか。

旭教育長 補足説明ですけど、これを急遽とったというのは、夏休みに入るもので1学期末に保護者等にこれを配らないといけないという現実がございました。9月の第2回加賀市教育体制検討会議で清水潔先生や寺西盛雄先生方に加賀市の現状を知っていただくために、夏休み中にこれを受けて事務局の方で調査します。21の小学校と6つの中学校がありますが、小学校の場合はどうしても複式を要する学校が多すぎる。ただ、学力テストの結果はその学校はみな良いんですけど、それでよしというわけにはいかない。黒崎小学校、菅谷小学校は来年4名ほど新1年生が入る予定なんですけど、学校説明会をこの7月中旬にしたいと案内を出しました。行きますと言ってくれたのは黒崎小学校の1名だけでした。菅谷小学校は0です。去年はどちらも0だった。2年連続この説明会の案内をしても来ない。ということは、保護者も意思表示していると私は考えております。だから、どこかで教育委員会として公表しないといけない。ただ、根拠なしのままにはできないので、第2回教育体制検討会議の地産地学の観点からこの問題について出していくつもりです。そのいろんな話し合いの材料になるデータを作っておかないといけないということでこれをやりました。どうせやるならということで、高等学校の先生方4校にも出ささせていただきました。それを全部まとめて分析して、第2回の教育体制検討会議の前に教育委員会に出す。あるいは勉強会に出してどう持っていくか検討していきたいと考えています。

上田委員長 詳しい文言については今もう出てしまっているんですね。

掛山局長 はい。

旭教育長 これはあくまでもジャブ的な調査です。対象校については、もう1回本格的な調査をしないとイケませんね。

上田委員長 何かこれについてお聞きになりたいところはございますか。

石橋委員 まとまるのはいつ頃になるのでしょうか。

網谷次長 7月いっぱい全部揃ってきますので、8月に入りましたら早速お盆までに何とか資料らしきものにしたいと考えております。

石橋委員 見ていますと記述式のものほとんどなくて数字を選ぶだけになっていますね。その他ご意見があればというのがありますが、あまり子供の意見、保護者の意見、もう少し他に書きたいことがあった場合に書くところがないとどうするのかなと思ったんですが。

網谷次長 そうですね。最後の質問のところには「なりたい職業ややりたいことがあれば書いてください。」や「その他ご意見・ご提案がございましたら」という記述の部分もあることはあるんですが、アンケート対象者が大変多いので、時間があればいいのですが一つ一つそれらをチェックして集計するのは難しく、今のところこれが精一杯かなというふうに考えております。

石橋委員 これは当然もう回収が終わっているんですね。

網谷次長 はい。

石橋委員 ということは、このことが 26 日の市 P 連の皆さんとの会合の中で話題になる可能性がありますね。彼等も皆回答しているわけですから、もう少し理解しておきたかったなと思います。

網谷次長 そうですね。

旭教育長 7 月 26 日に教育委員と PTA の会合がありますね。これは PTA が主催するもので司会はそちらがするんですけども、我々は事前の準備とかはあるんですか、生涯学習課長。

西出課長 後で言おうと思ったのですが、準備というよりあちらから内容について提示されているので、それについてご意見をまとめておいていただければと思います。

旭教育長 アンケートの件については、聞かれる可能性があるということですね。

石橋委員 グループごとに分かれて話をする中で、アンケートについて触れられてそちらに話が展開するのではないかと思ったのですが。

旭教育長 申し訳ございませんけども、これは避けて通れませんので加賀市としては適正規模の在り方を勉強していると、それから第 2 回の教育体制検討会議で大所高所からのご意見を聞いてみたいという調査ですというかたちで答えてもらえませんか。

上田委員長 そう答えられる内容をたくさん持っていませんから。でも大体わかっていると思いますけども。では、それくらいで時間も押してまいりましたので、その他(1)にまいりたいと思います。

■ その他(1) 教育委員研修会の開催について

掛山局長 資料に基づき説明

掛山局長 7 月 31 日(水) 15:00 からでお願いします。

旭教育長 勉強会ですね。

掛山局長 はい。場所は市民会館の 1 室をとります。

上田委員長 その他何かございますか。

■ その他(2) 加賀市 PTA 連合会との意見交換会について

西出課長 説明

石橋委員 去年も市民会館でしたか。

西出課長 いえ、文化会館でした。今年は市民会館 3 階ホールです。

旭教育長 よろしいですか。冒頭に上田委員長さんが選挙について話されましたが、これは想像するに教育再生実行会議というのを今進めているんです。安部首相の 6 年前の延長だと思いますけども、あのときの宿題が今回ってきていて色々改革があると思います。例えば、6 月 21 日にいじめ防止対策推進法というのが成立しました。これはまた事務局の方に下りてくるとは思いますけど



も、何かあった場合に速やかに対応しなかったりしたら教育委員会としての責任が今度問われてきます。そこの対応の仕方をまた勉強しないといけないということと、我々が勉強しておかないといけないのは、道徳の教科化の問題があります。それから教育委員会制度の問題、それから英語の充実ということで小学校の中でもうちょっと英語を強化しないといけないという動きがあります。それから教員のインターンシップ化とか、これは我々が騒いでも仕方ないですが、6-3-3-4 製の体制の在り方とか、小学校 6 年、中学校 3 年、高校 3 年というのを 4-4-4 でいくのか、4-5-3、5-4-3 でいくのか色々なことを言われています。この辺はあまりたいしたことはないと思いますが、来年から始まる教科書検定と歴史教育の問題、これがちょっと大きいかなと思います。今からいろんなかたちで動きが出てくると思いますので、また我々も新聞記事等アンテナを張って見ていきますが、いよいよこういう動きが出てくるのではないかと思います。そういう点で前の教科書選定の時の反省の一つとして、今日市政図書室を見ていただいたと思いますが、わかりにくい場所にあったかもしれませんが、入って左側に教科書コーナーを設けております。今使っている小中学校の教科書、前はただ閲覧というかたちで置いてあっただけなんですけど、指摘されていつでも誰でも見られる態勢にしております。来年から小学校の教科書選定の検討に入りますので、そのコーナーに全部出そうかと思います。教育委員の皆さんはいつでも持って帰って下さい。こちら側の予備は別にしておきます。音楽やらそういう専門外は見てもわからないので、道徳はまだ教科外になっていますけども、教科にするには教科書はどうするのか、それから教師はどうするのか、いろんな問題があります。そういうことで、教育界は動いていくのではないかなと思います。

石橋委員

ちょっといいですか。今の教科書の話なんですけど、いつも選定委員が選定した物が第 1 候補、第 2 候補として挙がってきます。ただ、正直言って私どもは各社の教科書の違いがそれほど鮮明にわかるわけではない。そういう意味では選定委員さんに来ていただいて、なぜこれを選んだのか聞くことはできないのかと実は前から思っていました。あるいは、選定委員さんが表に出ることが難しいなら、各学校のどなたでもいいですから複数の先生を集めてですね、例えば中学校であるならば国語も数学も全教科に対して現状をどう思っているのかという現場の声を聞くことも大事なのではないかと気になっていました。当然、歴史教育に関しても同じことが言えると思うのですが、それだけではなくて理科・社会にしてもその他含めて選定委員さんが選んできた物ですけども実際使ってみてどうなのか、あまり言えないかもしれませんが、この教科書とこの教科書はどう違ってなぜこちらが一番いいのか、現場で使っておられる方に聞きたいと思うのは私だけでしょうか。無謀な話ですか。正直時間がかかる話です。

酒谷委員  
網谷次長

酒谷委員 ー 私達はお聞きしましたけども、現場の先生にはわからないんですか。  
網谷次長 ー 公にはしません。  
酒谷委員 ー そうですか。  
旭教育長 ー 教科書選定の制度上の問題で、別に選定委員を置かなくてもいいんです。全部教育委員で決めてもいいんですけども、やっぱりわかりませんよね。だから現場の声を聞きたいということだと思いますけども、その辺は国も検討しているところなので、委員としてはわかるんですけども OK はできないと思います。辛いかと思いますけどもやっぱりこれは教育委員一人ひとりが課せられた責任になってくると思うんです。

石橋委員 ー 判断基準がわからない。  
掛山局長 ー もう一度、事務局でどれだけ制度的に今石橋委員が言われたようなことを取り組みできるか調べてみます。選定委員が非公開、公開というのは明記されていたか、私自身も法的になかったような気がします。第一段階ではなく、次の下調べする方達はどうか確認します。できるだけ公開できるようなかたちでせざるを得ないかなと思っていますので。

石橋委員 ー 我々が教育委員の立場として聞きたいという分に関しては何ら公開する必要もないし、最終的に決定するのは我々ですから、決定するに当たっての判断基準を自分なりに持ちたいなと私は基本的に思うものですから。  
掛山局長 ー それができない理由がなかったような気がするんです。  
石橋委員 ー 時間もものすごくかかるので自分の首を絞めるような話だと思いますが、できるのかできないかを聞いてみたかったです。

掛山局長 ー 法的に、制度的に可能か確認してみます。  
上田委員長 ー まだ時間がありますから調べてみてください。他にございますか。  
梶谷課長 ー 次回日程の前にお知らせなんですけども、県の教育委員会との意見交換会を行いたいということで、金田委員長の方から「教育困難地域における学校教育の現状と課題」というテーマをいただいております。県内2箇所ほど回っておられて能登と加賀ということでやっておられるんですけども、人が少ないというのもこの中に入るのかもしれないです。授業の様子と校舎内の様子を見た後に意見交換会をするということで2~3時間を予定しています。今のところ10月の第1週で日程調整できないかということです。

酒谷委員 ー どこを見られるんですか。  
梶谷課長 ー 山代小学校と山代中学校を指定されています。県の教育委員の方が2~4名と金田教育委員長が入られます。あと県の教育事務所と事務局からです。市の教育委員は委員5名と関係職員という予定でお願いしたいと思います。今そういうふうに通じておりますのでよろしく申し上げます。

掛山局長 ー 次回の日程をお願いします。  
梶谷課長 ー はい。それと次回の日程ですけども、議会の関係がありまして8月20日で考えております。  
旭教育長 ー 議会はいつからでしたか。

梶谷課長 議会は 26 日からです。

旭教育長 そして 20 日が教育委員会ということですね。

掛山局長 皆さんどうでしょうか。

畑中委員 あまり早くない方がありがたいです。

梶谷課長 3 時くらいからでどうでしょうか。

畑中委員 大丈夫です。

掛山局長 それぐらいまでにアンケートが少しまとまっていれば。

網谷次長 大丈夫だと思います。

旭教育長 事務局の方でまとめておいてください。

掛山局長 9 月にまた第 2 回教育体制検討会議を開催しますので、20 日以降にまた少し勉強会をやらないといけません。

上田委員長 では、今回は 8 月 20 日（火）3 時でよろしくお願ひいたします。

酒谷委員 時間のないときにすみません、一つお聞きしてもいいですか。先月の定例会の時に議会の報告で、スクールソーシャルワーカーの方が 4 月に七十何回、5 月は百三十何回と書いてあったんですが、そんなにたくさん問題があるんですか。スクールソーシャルワーカーの方がどのようなところを回ってらっしゃるのかなと思ひまして。

網谷次長 4 月・5 月の動きの中で、初めてスクールソーシャルワーカーを置いたこともあって、各学校や保育園を回ったり、児童相談所など各関係機関へのご挨拶も含めてのことです。

酒谷委員 それも含めてですか。

網谷次長 もちろんそうです。各学校で問題を抱えている児童生徒に関しては、また日を改めて出掛けるとか、各学校にお話を伺いに行くのも全て含めてということです。おかげさまで 4 月・5 月の間に現在不登校の生徒が心的な問題で来れていないのか、または貧困の関係で来れていないのか、いろんなかたちでの調査が大変進みまして、そういうものが一覧表になって資料が整ってきております。それもスクールソーシャルワーカーがこまめに各関係機関に足を運んだ成果だと思ひます。

旭教育長 スクールソーシャルワーカーを置いたからということもありますけども、加賀市全体としては学力テストの結果は悪いですけど、不登校が減ってきています。今、小中学校合わせて 54 名、以前は 3 桁だったわけですから、普通じゃありませんでした。だから減ってきてはおります。教育困難地域と言ひましたけども、どこに多いかといったらやっぱり圧倒的に山代なんですよ。山代小・山代中で半分近くを占めているんです。スクールソーシャルワーカーが落ち着きましたら、2 学期にでも中間報告というかたちで、ここで教育委員の方々に報告してもらえればいいと思ひます。スクールソーシャルワーカーを置いたからなくなるというわけにはいきませんが、学校が落ち着き、先生方が本来の授業に集中してもらえるように持っていけないと思ひております。

上田委員長 ；また成果の報告をお願いしたいと思います。それでは、第7回教育委員会定例会を終わります。お疲れ様でした。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。